

◇ 教員免許更新講習シラバス(選択領域分)
講座内容についての問い合わせ先 kyomu@aogaki.nara-u.ac.jp (奈良大学)

<S010>

講習名		主な受講対象者	時間	講習形態
書物をめぐる諸問題		中学校・高等学校国語教諭	6H	インターネット講習 (オンデマンド型)
開設期間		講師名(所属・職名等)		
令和3年8月11日～10月11日		丸田 健(奈良大学・教授) 山田 昇平(奈良大学・講師) 中尾 和昇(奈良大学・准教授) 木田 隆文(奈良大学・教授)		
定員				
30人				
【講習の概要】				
書物には、言語・文学・歴史・思想など、さまざまな情報が記録・集積されており、多様な人間の営みを伝えるメディアとしての機能を果たしている。近年では「書物学」なる研究もおこなわれ、関心が高まりつつある。本講習では、言語哲学・日本語学・文学・出版学の各分野から、書物をめぐるさまざまな問題に迫りたい。				
【小テーマ①】 哲学作品から見る言語観			1. 5H	(担当講師:丸田 健)
講習形態	講義形式			
講習内容	ヴィトゲンシュタインの著作を読むことを例に、言語理解の多面性について哲学の分野から解説する。			
到達目標・確認指標	①哲学者ヴィトゲンシュタインの言語論の発展・変容の概要を理解できる②言葉の意味理解への異なるアプローチ・観点を理解できる			
キーワード	写像理論、意味の使用説、文法規則、言語の創造性			
【小テーマ②】 ことばを留める—文字とは何か			1. 5H	(担当講師:山田 昇平)
講習形態	講義形式			
講習内容	本講義が扱うのは、文字とは何か?という問いである。文学作品は一般に文字によって保存される。しかし、そもそも、文学の内容たる「ことば」と文字とはどのような関係なのか。文字のみが文学を保存するのか。文字と絵とは何が違うのか。そのような文字をめぐる様々な問いに対して考えたい。			
到達目標・確認指標	①口頭言語と書記言語の違いについて理解できる②文字で書かれることの特殊性を理解できる③文字という観点から書籍について考察できる			
キーワード	文字、口頭言語、書記言語、保存メディア			
【小テーマ③】 物語絵と近世—イメージの定着・発展—			1. 5H	(担当講師:中尾 和昇)
講習形態	講義形式			
講習内容	江戸時代は出版の時代と言われている。これまで写本でしか伝わらなかった文学作品が、大量に印刷されることによって、読者層が爆発的に増加した。今講義では、『伊勢物語』を題材に、写本(絵巻・絵本)から板本への展開をたどりながら、そこから窺えるイメージの定着について考えたい。			
到達目標・確認指標	①物語絵の構図の多様性について理解できる。②板本挿絵として定着した構図の特徴について理解できる。③写本と板本の違いについて考察できる。			
キーワード	物語絵、写本と板本、挿絵、『伊勢物語』、嵯峨本			
【小テーマ④】 書物をめぐる制度—小林多喜二「蟹工船」の背景			1. 5H	(担当講師:木田 隆文)
講習形態	講義形式			
講習内容	本講義は近代以降の書籍出版をめぐる制度を、発禁という観点から考えてみることにする。まずは近代以後の出版を取り巻く法的・社会的枠組みの確認を行い、そのうえで小林多喜二「蟹工船」を例に、官憲側と印刷・出版者側との間で取り交わされた表現をめぐる攻防を検討してみたい。			
到達目標・確認指標	①近代以降の出版をめぐる法的概念を理解できる②近代以降の出版・印刷の実態を確認できる③表現の自由とそこにかかわるバイアスを考察できる			
キーワード	発禁、表現の自由、近代の印刷出版、小林多喜二「蟹工船」			
試験方法	各小テーマの最後に10分程度の筆記試験を行う。			
成績評価の方法・基準等	演習課題及び試験の成績で判断する。(演習課題10点＋試験15点×4テーマ＝100点満点) 評価基準は、総合点で60点以上を合格とする。			